

第2学年 図画工作科学習指導案

対 象 2年4組 男17名, 女14名 計31名

指導者 伊東 暁子

1 題材名 ときめきコンサート - 工作 - (日本文教出版 1・2下)

2 題材について

(1) 児童について

本題材にかかわる事前アンケートを行ったところ、次のような結果となった。

身近なものを使って音を鳴らしたことがあるか。	ある	90% (28人)
	ない	10% (3人)
使ったことがある用具	のり・ボンド・セロテープ	100%
	ビニールテープ	68% (21人)
	ガムテープ	84% (26人)
友達に自分の感じたことを伝えることができるか。	できる	74% (23人)
	できない	26% (8人)

本学級の児童は、図工に対して関心・意欲が高く、どの学習でも自分の思いを表現することに意欲的で、熱心に製作や遊びをしている。しかし、アンケートの結果から、思いはあるものの言葉や形に表現することが苦手な児童もいる。そこで、友達とかかわる中で、アイデアを共有したり一緒に活動したりすることを通して、思いを伝え合う機会をもたせたい。また、自分なりの工夫で気に入った音を探したり、つくった楽器がもっと素敵になる飾りを付けたりするなど、自分の思いを表現する喜びを感じさせたい。

(2) 題材について

本題材の中心となる指導事項として、A表現(2)「ア 表したいことを進んで見付け、好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだり、つくり方を考えるなどしながら思いのままに表すこと。イ 表したいことに合わせて、粘土、厚紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類などの身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使い、絵や立体に表したり、つくりたいものをつくったりすること。」を取り上げる。

本題材は、音を出すという目的に沿って、児童が思いをもって材料や加工方法を選ぶことから、試しながらつくり自分なりの工夫を重ねていくことができる。また、友達と一緒に音を出して演奏し楽しむことができるので、自分の思いを作品で表現する力を育てるだけでなく、友達の作品のよさに気付いたり楽しさを共有したりすることができる。

本題材では、生活科の「おもちゃフェスティバル」の開催時に手づくりの楽器で「ときめきコンサート」を開くという設定で学習を進めていく。兄弟学級の1年生を招待し手づくりのおもちゃと一緒に遊ぶとともにコンサートで盛り上げ、より一層仲良くなろうとする意欲をもたせることで、主体的な活動につながると考える。

(3) 指導について

本題材の目標は、「叩いたり、弾いたり、振ったりして音が鳴るものを身近な材料を使ってつくる。」である。自分なりの工夫で気に入った音が鳴る楽器をつくったり、音の感じから形や色をとらえ、つくった楽器がもっと素敵になるように飾りをつけたりして、つくりたいもののイメージをもったり友達と一緒に楽しんだりすることをねらいとしている。児童が友達と一緒に活動しながら、生き生きと表現する力を伸ばせるように、全体やグループでつくりたいものや飾りのイメージ、思いを言葉で伝え合う活動を取り入れたい。振り返りの段階では、自分や友達の表現のよさに気づき、つくる楽しさを実感させたい。

3 題材の目標

(1) 造形への関心・意欲・態度

どのような音が鳴るのかを考えながら、気に入った音が鳴るものをつくることに取り組もうとする。

(2) 発想や構想の能力

叩く、弾く、振る、こするなどすると、どのような音が鳴るのかを考えながら、気に入った音を見つけ、つくりたい楽器を考える。

(3) 創造的な技能

気に入った音を探しながら、素敵な楽器になるように材料の飾り方などを工夫する。

(4) 鑑賞の能力

自分や友達の商品を見たり、音を鳴らしたりしながら、互いの表現のよさや面白さを味わう。

4 指導と評価の計画

時	題材名	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
小1	クルクルまわして 身近な材料で、風を当てると回る仕組みをつくり、飾りや模様を加えて、楽しく遊ぶものをつくる。	仕組みをつくったり、飾りや模様を加えたりして、風で回るものをつくることを楽しもうとしている。	身近な材料が回る様子を基に、付ける模様や飾りを考えている。	回る様子確かめながら、模様や飾りの付け方を工夫している。	回して遊びながら、作品の楽しさを感じ取り、模様や飾りが回る面白さを見つけている。
小2	1 ときめきコンサート 身近な材料を使って、どんな仕組みでどんな音が鳴りそうか、試したり話し合ったりする。 つくる楽器の仕組みや飾りなどを考える。	どのような音が鳴るのかを考えながら、気に入った音が鳴るものをつくることに取り組もうとしている。			
	2	材料の形や大きさなどを選び、音を出して試しながら工夫してつくる。	材料を選び、気に入った音を見つけつくりたいものを思い付いている。	素敵な楽器になるように材料の形や大きさを選ぶなど、工夫している。	
	3 [調]	楽器の飾りを工夫しながらつくる。	お気に入りの音や楽器に合う飾りをつくることに取り組もうとしている。	もっと素敵な楽器になるように飾り方などを工夫している。	
	4	つくったもので演奏会をしたり、互いに見せ合ったりして、作品の音や飾りなどの面白さについて話し合う。			
小3	ゴムの力でトコトコ ゴムの力で動く楽しいものを、身近な材料を使い、仕組みを組み合わせてつくる。	ゴムの力で、トコトコと動く楽しいものをつくることに取り組もうとしている。	トコトコと動く表したいものを見つけ、空き箱や空き容器などを組み合わせ、つくりたいものを考えている。	表したいイメージに合わせて、仕組みのつくり方や身近な材料の組み合わせ方を工夫している。	自分の意図や目的を話したり友人の話の聞いたりしながら、作品の共通点や相違点、工夫などを見付けている。

5 本時の指導

(1) 目標

もっと素敵な楽器になるようにお気に入りの音や形に合う飾り方を工夫することができる。

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準
造形への関心・意欲・態度	お気に入りの音や楽器に合う飾りをつくることに取り組もうとしている。
創造的な技能	もっと素敵になるように、お気に入りの音や楽器に合う飾り方を工夫している。

(3) 展開

段階	学習活動	●指導上の留意点 ◎評価
導入 10分	1 前時の想起	●1年生にコンサートで楽器を演奏してみせるために、音が素敵に聞こえるような飾りを付けることを確認する。
	2 課題の確認 がっきや音のかんじにぴったりのかざりをつけて、もっとすてきながっきをつくろう。	
展開 27分	3 課題の解決 (1) 楽器の音の感じや楽器に合った色や飾りを考える。つくりたい飾りのイメージを膨らませる。 (2) どんなイメージか発表したり、アドバイスをもらったりする。 【発表 例】 ・ボンボンという音だから、丸い形の折り紙を使いたい。 ・タンタンという音だから、カクカクの模様に使いたい。 ・サラサラという音がするから、スズランテープをつけたい。 ・楽しい感じがするから、いろいろな色でカラフルに使いたい。 ・波のような音がするから、青を使いたい。 (音のイメージ…優しい、かわいい、かっこいい、～みたいな○○など)	●どんな音が出る楽器になったか確認したり、楽器の音の感じから思い浮かぶこと(飾り・色)を考えさせたりする。
	(3) 楽器に飾りを付ける。 (4) グループの友達同士で飾りを見せ合う。	●友達同士でアイデアを出し合ったり、アドバイスをしたりしながらつくってよいことを確認する。 ◎お気に入りの音や楽器に合う飾りをつくることに取り組もうとしている。(作品・活動の様子) ◎もっと素敵になるように、お気に入りの音や楽器に合う飾り方を工夫している。(作品・活動の様子) ●音の感じや楽器に合っているかを話し合うようにさせる。

終末 8分	4 振り返り <ul style="list-style-type: none"> 自分の活動を振り返る。 グループの友達の作品の感想を発表する。 振り返りシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●イメージに合わせて自分が工夫したことや、友達からもらったアドバイスで飾ったことを発表させる。 ●グループの友達の作品のよさを発表させ、次時の学級での発表会へ期待を高める。
	<p>【振り返り 例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎやかな音にぴったりのカラフルな水玉の飾りを付けることができてうれしかった。 ・波みたいな音にぴったりの青い色の楽器ができてよかった。 ・初めは、何色を使ったらいいか分からなかったけれど、〇〇さんが、私の音を優しい音と言ってくれたので、ピンクのリボンを付けました。 ・〇〇さんが、ストライプのギターをつくっていてかっこいいと思いました。 	
	5 次時の確認	●発表会をすることを知らせる。

4 板書計画

